

新A i r - N A C C S稼働後の状況について

平成22年3月24日

輸出入・港湾関連情報処理センター（株）

新A i r - N A C C S稼働後の状況について

N A C C Sセンターにおきましては、新しいN A C C Sの開発を、平成17年から、ご利用者の皆様を含め、関係各方面のご協力を得て進めてまいりました。

その結果、新N A C C Sの第一段階として、平成20年10月に、S e a - N A C C Sを新N A C C Sへ移行し、第二段階として、本年2月21日午前5時にA i r - N A C C Sを新N A C C Sに移行いたしました。これにより、新N A C C Sが完成し新たな稼働を開始しました。

新N A C C Sは、現在のところ大きな混乱もなく順調に稼働しております。

新N A C C Sの特徴は次のとおりとなっております。

1. システムの共通化・スリム化

- ① S e a - N A C C SとA i r - N A C C Sのハードウェア等を統合し、効率的運用を実現
- ② S e a - N A C C S及びA i r - N A C C Sの各対象業務を集約するとともに、通関業務等をS e a、A i r共通化しシステムのスリム化を実現

2. サービスレベルの維持・向上

- ① 365日24時間稼働を実現（ノンストップ運転の実現）
（旧S e a - N A C C Sは午前2時～午前4時、旧A i r - N A C C Sは午前4時30分～午前5時の間、メンテナンスのためシステムを停止）
- ② バックアップ・センター（フル・バックアップ）を設置し、危機管理対策を強化
（災害等によりメイン・センターが完全停止した場合、直ちにバックアップ・センターが代替として稼働を開始できるシステム体系を構築）

3. 利用者の利便性を考慮した機能向上・改善

- ① 利用者の拡大（平成20年10月のS e a - N A C C S更改時から）
輸出入者、海貨業、N V O C Cが新たに参加
（注）従来からの利用者：船会社、船舶代理店、C Y、航空会社、航空代理店、混載業（A i rフォワーダー）、保税蔵置場、機用品業、通関業、銀行、税関、関連省庁
- ② 業務実態等を踏まえた業務の見直し・追加による機能向上・改善
（S e a - N A C C Sにおける入出港S W業務の機能改善、A i r - N A C C Sにおける入出港業務（旅客氏名表等の提出等）のS W業務の追加等）
（注）S W（シングルウィンドウ）業務とは、1回の入力、送信で、複数の省庁に対して複数の手続を同時に行うことを可能とする業務

新N A C C Sにおいては、上記の改善等を実現するとともに、結果としてシステム運用コスト等を全体として約3割程度削減し、ご利用者にご負担いただくシステム利用料金につきましても引き下げを行いました。A i r - N A C C Sのご利用者にあつては、本年2月21日から引き下げ後の新システム利用料金を適用させていただいています。

(参考)

1. 新Air-NACCS稼働開始期の状況（2月21日～3月4日）

(トラフィック件数とエラー率)

区 分		2/21(日)	2/22(月)	2/23(火)	2/24(水)	2/25(木)	2/26(金)
航空	トラフィック件数	378,000	796,955	898,629	903,074	918,041	1,001,345
	エラー率	17%	17%	13%	13%	12%	13%
海上	トラフィック件数	24,485	636,204	515,092	498,616	482,951	472,555
	エラー率	11%	10%	9%	9%	9%	9%

区 分		2/27(土)	2/28(日)	3/1(月)	3/2(火)	3/3(水)	3/4(木)
航空	トラフィック件数	504,778	349,839	751,645	850,938	857,424	889,779
	エラー率	11%	11%	12%	11%	11%	10%
海上	トラフィック件数	61,457	20,073	517,607	498,350	511,771	528,886
	エラー率	7%	8%	9%	9%	9%	9%

(注) 旧 Air-NACCS エラー率 11%程度

Sea-NACCS エラー率 9%程度

2. 新Air-NACCS稼働開始期の対応

① 「システム更改対策本部」の設置

新Air-NACCS稼働開始期における不具合等に対し迅速かつ的確に対処するため、企画部を本部とする「システム更改対策本部」を設置し対応しました。

② システム運用管理体制及び問合対応体制の強化

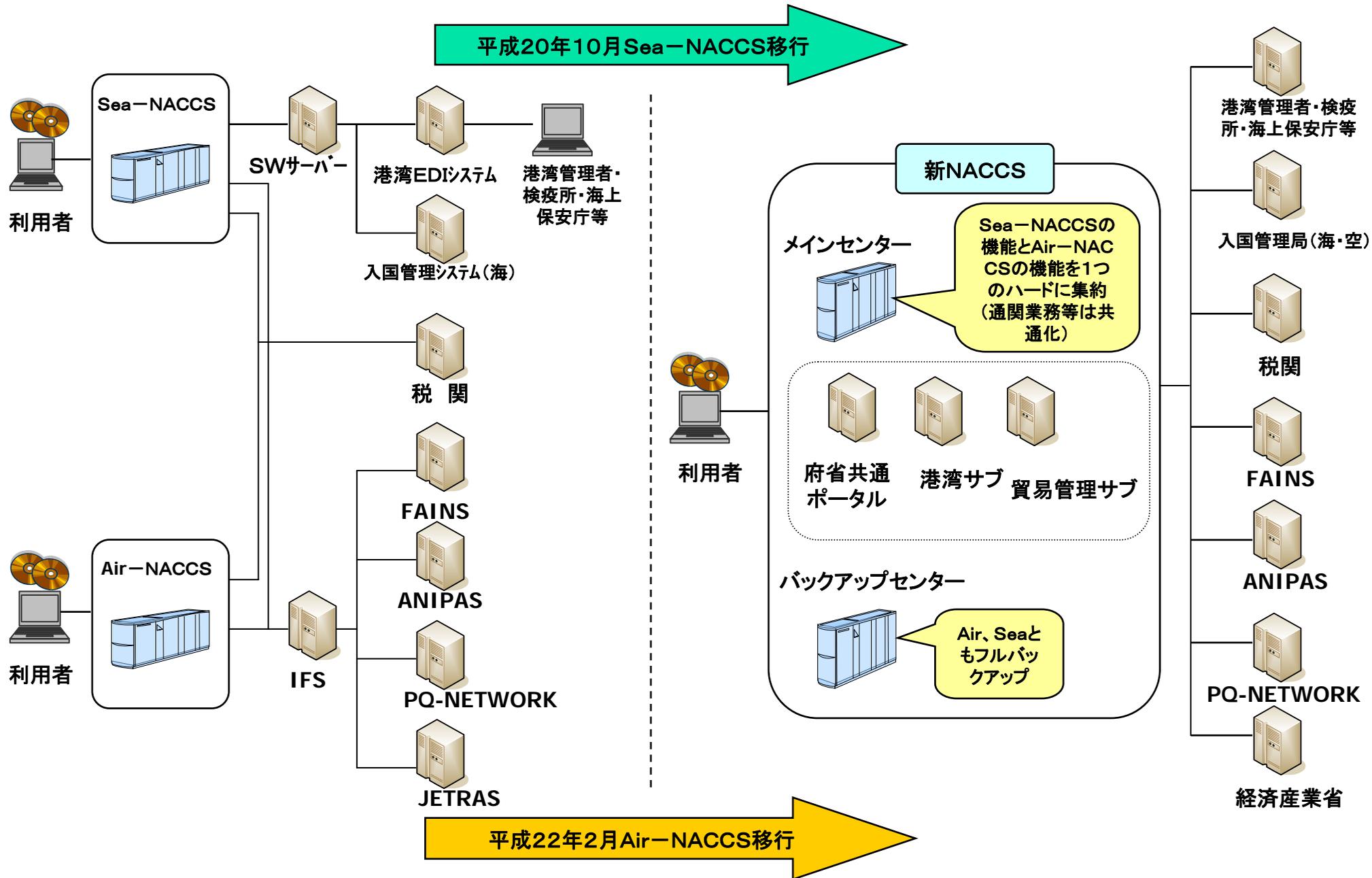
新Air-NACCS稼働開始期において、

- ・ システム部職員を24時間勤務（2月21日～24日）とし、システム運用管理体制を強化しました。
- ・ 2月21日～3月5日の間、ヘルプデスクの平日の問合受付時間を延長するとともに、土日においても平日の問合受付体制とし、問合対応体制を強化しました。

(ヘルプデスクにおける問合受付対応強化体制)

第1週		第2週		
稼働日 2/21(日)	2/22(月)～2/26(金)	2/27(土)	2/28(日)	3/1(月)～3/5(金)
05:00～ 20:00	08:30～20:00	09:00～ 18:00	09:00～ 18:00	08:30～19:00
上記時間以外は、夜間、休日体制にて問合受付				

(別紙1) 旧NACCSから新NACCSへ



(別紙2)新NACCSの特徴

◆システムの共通化・スリム化

- Sea-NACCS、Air-NACCSのハードウェア等の統合
Sea-NACCSとAir-NACCSのハードウェア等を統合し効率的運用を実現
- 業務のスリム化
Sea-NACCS及びAir-NACCSの各対象業務を集約化するとともに、通関業務等をSea、Air共通化

◆サービスレベルの維持・向上

- 信頼性の維持
メインセンターの稼働率の目標値:99.99%以上
- 危機管理対策
バックアップセンターの設置
(バックアップセンターの稼働率の目標値:99.9%以上)
- 稼働時間の延長
24時間365日稼働
(ただし、月に1~2回程度計画停止(保守)を実施)
(参考)旧Sea-NACCSは午前2時~午前4時、旧Air-NACCSは午前4時30分~午前5時の間、保守のため、オンライン運転を停止
- 業務トランザクション処理時間
1秒以内(平均値)
(注)多数件処理機能、開庁時申告制御機能を利用したトラフィックを除く。

◆業務実態・使い易さを考慮した機能改善

- 業務の見直し、入出力項目の見直し、EDIの改善等

◆シングルウィンドウの推進

- 港湾EDIシステムを「港湾サブシステム」としてNACCSに統合(H20.10)
- 空港における入出港関連手続のシングルウィンドウ化を実現(H22.2)
- JETRASを「貿易管理サブシステム」としてNACCSに統合(H22.2)

◆国際物流の情報化推進

- システム参加者の拡大(荷主、海貨業、NVOCC等)
- 原則全員参加を前提として開発(全員参加を目指すシステム)

◆国際標準への準拠

- EDIFACTに対応(海上の入出港関係業務等)、XMLに対応(インボイス・パッキングリスト業務)、住所の階層化

◆コスト削減

- ハード、ソフトの可能な限りの共有化、業務のスリム化等